

地域包括ケアシステム時代における地域医療 従事者の学術情報探索行動（調査）（第1報）

高崎千晶¹⁾、相澤まゆみ²⁾、石井恵³⁾、

工藤女恵⁴⁾、小林飛鳥⁵⁾、佐藤正恵¹⁾、吉原理恵⁶⁾

1) 千葉県済生会習志野病院, 2) 東京都済生会中央病院, 3) 群馬県済生会前橋病院,

4) 天使病院, 5) 鳥取市立病院, 6) 大阪府済生会中津病院

【背景と目的】

厚生労働省は 2025 年を目途に地域包括ケアシステムの構築を進めている。地域医療支援病院などに設置された病院図書室が地域の医療従事者へ行う研修のサポートおよび学術支援といった情報サービスは、今後さらに重要性を増すと言える。だが、地域医療従事者の情報サービスへのニーズについて先行研究を医中誌 Web, CiNii Article で検索したところ、薬剤師、へき地診療所勤務の看護師を対象にした先行研究はあるものの、その他の職種を対象に複数地域で実施した研究は発見できなかった。

よりよい情報サービスを実践していくうえで参考とするために、本グループでは国内複数地域にて、地域医療従事者の情報探索行動を調査することとした。それに先立ちパイロット調査を実施したので、結果を第1報として報告する。

【対象】

大学病院および図書室機能を有する医療機関に勤務していない医療従事者（医師、事務系職員、医療ソーシャルワーカーを除く）。

【方法】

半構造化面接によるインタビュー。地域で開催する勉強会等で集まった医療従事者に協力を仰いだ。

【今後の活動】

この調査をもとに質問項目を検討・作成し、調査対象の地域や職種を広げ、Web アンケート（放送大学提供のリアルタイム評価支援システム REAS）または封書でのアンケートを行う。回答を分析し、考察を加える。

※本研究は、NPO 法人日本医学図書館協会の 2018 年度研究助成によるものである。